

ウォーターフロント地区再整備構想

「アジアのリーダー都市」を目指し、福岡市を次のステージへ



はじめに

福岡市は、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を確かなものとし、人と環境と都市活力の調和が取れた「アジアのリーダー都市」を目指し、次のステージへと飛躍させる「FUKUOKA NEXT」にチャレンジしています。

そのリーディングプロジェクトがこの『ウォーターフロントネクスト』です。天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ福岡市の新たな拠点づくりに取り組んでいます。

博多港は、日本一のクルーズ船寄港地であり、平成27年の寄港数は259回、乗降者数は約115万人と、過去最高を記録いたしました。また、福岡市の国際会議の開催件数は、6年連続全国第2位となり、平成26年には前年から83件増え、全国1位の増加件数となっています。ウォーターフロント地区には、こうした会議等の主要な会場となる福岡国際会議場やマリンメッセ福岡やなどのMICE施設が集積しており、年間約270万人の方が利用する全国でも有数のコンベンションエリアとなっています。

しかしながら、このように増え続ける需要に都市の供給力が追いついておらず、海のゲートウェイ機能やMICE機能の強化とあわせ、賑わいや憩いの場の創出が必要となっています。

そのため、ウォーターフロント地区が持つ高いポテンシャルを活かしつつ、都市の機能強化や魅力づくりを進めるため、市民や専門家の皆さまからのご意見や、事業者の皆さまからの計画提案をいただきながら、このたび、まちの将来像等を取りまとめた「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備構想」を策定いたしました。

今後、市民の皆さまをはじめ、世界中から多くの人々が訪れ、出会いと交流が生まれるまちとして、世界に誇るインバウンド拠点の形成や、九州・西日本の更なる発展に貢献するまちづくりを目指し、官民連携による魅力的なウォーターフロントづくりに取り組んでいきます。



福岡市長
高島 宗一郎

目 次

01	ウォーターフロント地区再整備の目的	P 1
02	福岡市の強み	P 2
03	ウォーターフロント地区のポテンシャル	P 3
04	まちの将来像	P 5
05	土地利用の基本方針	P 7
06	交通・回遊機能強化の基本方針	P 9
07	景観形成の基本方針	P10
08	持続可能なまちづくりの基本方針	P11
09	今後の取り組み	P12

【参考:これまでの取組経緯】

- ・平成26年4月～8月 ウォーターフロント地区再整備に関する専門家懇談会
- ・平成26年7月 「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性(案)」の市民意見募集
(募集期間:7月10日～8月8日)
- ・平成26年9月 「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の方向性」の策定
- ・平成27年3月 ウォーターフロント地区計画提案公募
(受付期間5月1日～6月30日)
- ・平成28年3月 「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備構想」の策定

01

ウォーターフロント地区再整備の目的

●福岡都心部の国際競争力を強化し、九州・西日本の発展に貢献

天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ新たな都心拠点として、世界から人を呼び込み、世界に向けて発信する、九州・西日本の発展に貢献するまちへ

●MICEやクルーズなどの需要の増加に対し、都市機能の供給力の向上

供給力不足が顕在化している都市の機能を充実させ、更なる都市の成長へ

●海辺を活かした賑わいと憩いの空間形成

都心の貴重な海辺空間を市民が日常的に集い、憩えるまちへ

<ウォーターフロント地区再整備構想>

- 対象区域 中央ふ頭・博多ふ頭の概ね65ha
- 策定の目的 市民や事業者の方々とまちの将来像を共有／地区全体の計画的なまちづくり
- 目標年次 概ね20～30年後



マリンメッセ福岡



福岡国際会議場



クルーズセンター

02

福岡市の強み

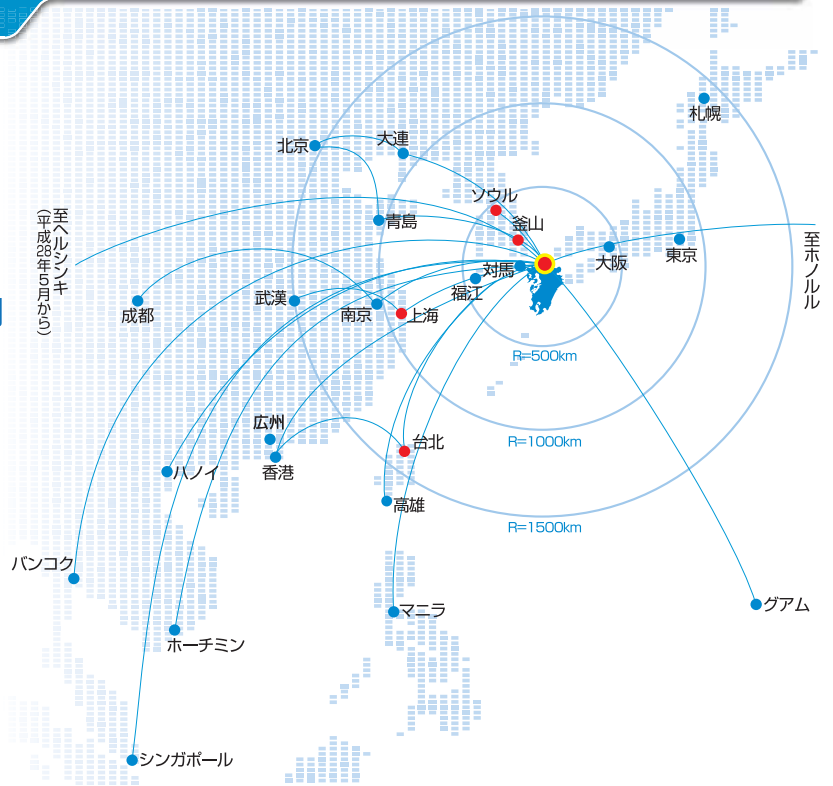
アジアに近接

●空間的・時間的な近接性

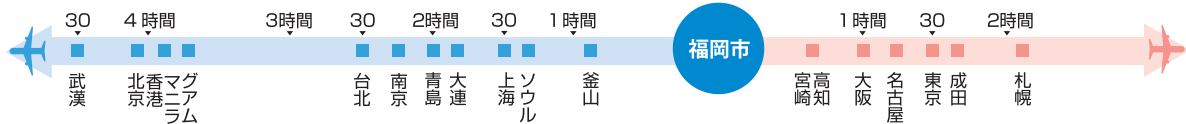
ソウル・大阪は500km圏内
 上海・東京は1000km圏内
 台北・札幌は1500km圏内

●東アジア主要都市は日帰り圏内

上海、台北、ソウル、釜山などは飛行機で日帰り圏内



- 航空路線就航の状況
 国際線：20都市・20路線
 (2016年2月現在)
- 国際空路
- 日帰り可能な海外都市



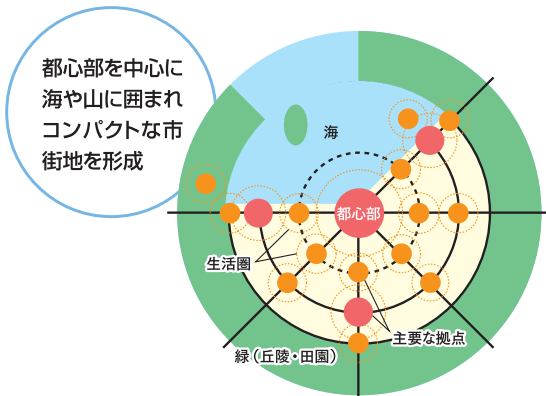
コンパクトな都市構造

●空港から約10分で都心部へ

福岡空港から天神、博多へ地下鉄で直結

●半径2.5km圏内に都市機能が集積

商業・業務等の都市機能や、陸海空の交通拠点が集積



03

ウォーターフロント地区のポテンシャル

MICE施設の集積

- マリンメッセ福岡, 福岡国際会議場、福岡国際センター等の立地
- 増加しつづける開催需要により、稼働率が上限に近い状況

平成26年5月福岡市は
国家戦略特区に指定
～グローバル創業・雇用創出特区～

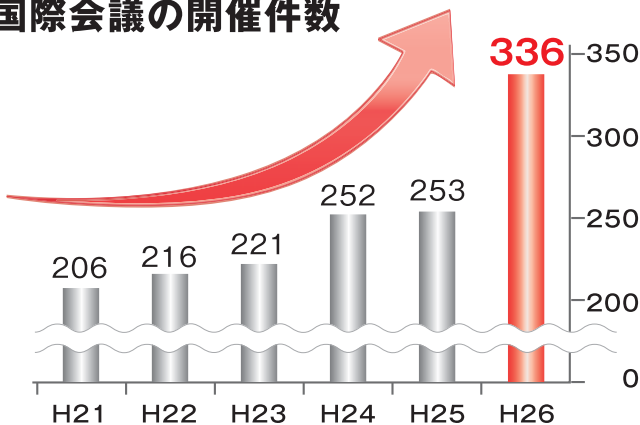


ユニークベニュー開催によるMICE誘致の強化



PHOTO: Fumio Hashimoto

■ 国際会議の開催件数



- 福岡市の国際会議開催件数は、**全国第2位!**(6年連続)^{※1}
- ウォーターフロント地区はその一翼を担っている
- 年間40～50件の開催お断り、経済損失は最大約190億円

※1 日本政府観光局(JNTO)調べ

アジアの海のゲートウェイ

●平成27年のクルーズ船の寄港回数は
過去最高かつ日本一^{※1}

●国際乗降客数も23年連続日本一^{※2}



平成27年6月に博多港に初入港した大型クルーズ船
「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」

写真提供:ロイヤル・カリビアン・インターナショナル

【箱崎ふ頭地区】

クアンタム・オブ・ザ・シーズ
(総トン数167,800t、総乗客定員4,905人、全長348m)

大型クルーズ船の相次ぐ入港



【中央ふ頭地区】

コスタ・アトランチカ
(総トン数85,619t、総乗客定員2,680人、全長293m)



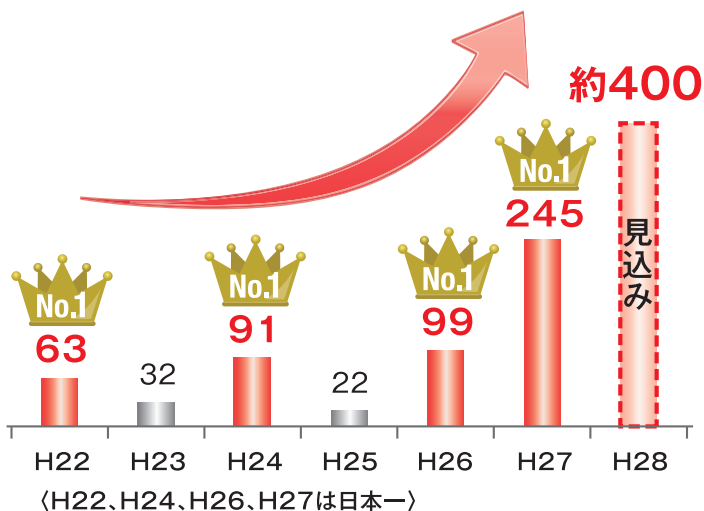
クルーズ船二隻同時寄港状況(H27.8.5)

■外航クルーズ寄港回数の急増

- H27年は過去最高を更新し、
2年連続**日本一!**
- 今後、更なる寄港が見込まれる

■アジア地域のクルーズ市場拡大

- アジア地域のショートクルーズ市場が急成長!
- 船会社はアジア地域へ新造船や大型船を投入



※1 国土交通省調べ(速報値)、※2 福岡市港湾局調べ(速報値)

身近な海辺、世界中から訪れる人々、 新しい出会いと交流が生まれるまちへ

<まちづくりのコンセプト>

- ① 市民や来街者が海辺を楽しめる賑わいや憩いの空間づくり
- ② MICEや海のゲートウェイとして賑わう国際的な交流空間づくり
- ③ アジアのゲートウェイとして世界に開かれた新たな拠点づくり

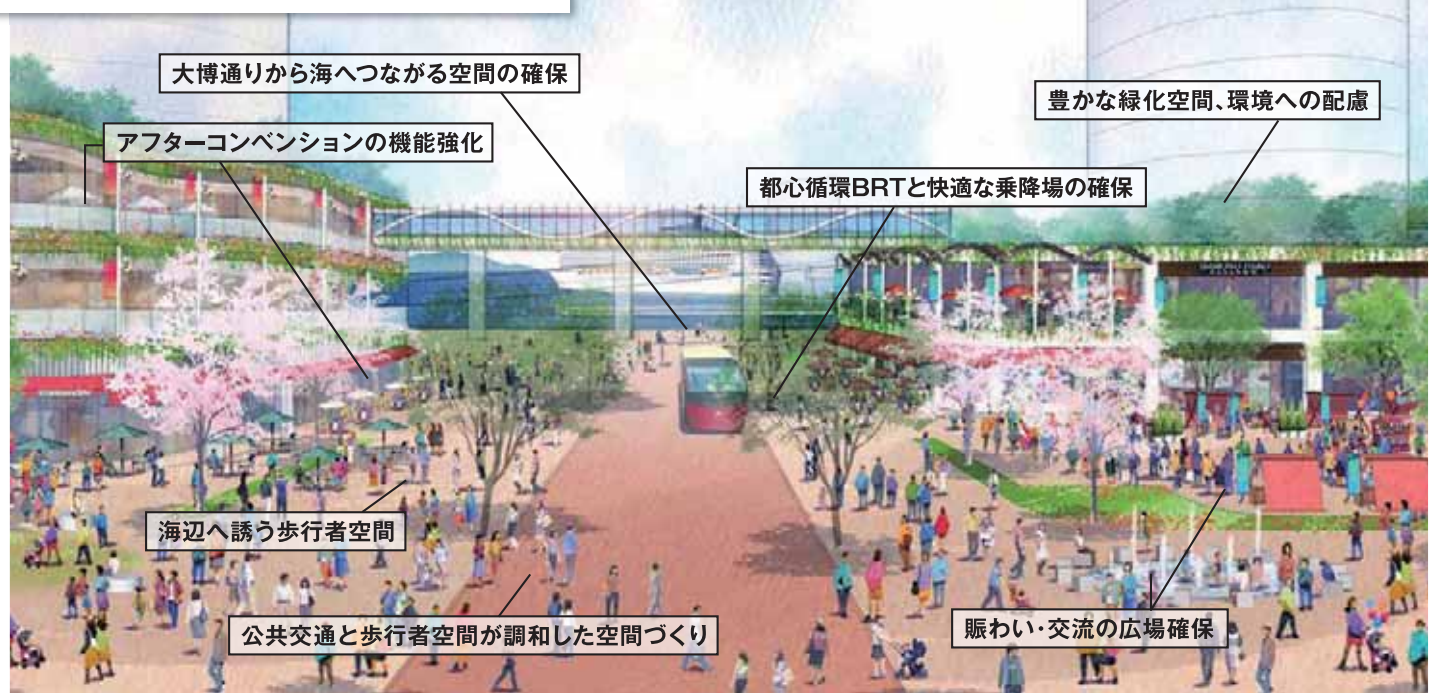
多数の来街者で賑わう海辺空間(シドニー)



ウォーターフロント地区再整備の方向性

- ・市民をはじめ国内外からの来街者が楽しめるよう、海辺を活かしたシンボリックな空間や賑わいが連続した憩いと潤いのある空間を創出します。
- ・民間企業の活力やノウハウを積極的に活用し、地区の強みを活かしながら、MICE、港、賑わいを中心とした機能が集積する一体的なまちづくりを行います。
- ・天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ新たな都心拠点として、国際競争力を強化し、九州・西日本の発展に貢献するまちづくりを行います。

まちから海へつながる



※イメージバースであり、確定したものではありません。

海辺を楽しむ



※イメージバースであり、確定したものではありません。

05

土地利用の基本方針

～都心の貴重な海辺空間を活かしたまちの再生(機能の多様化・複合化)～

●MICE機能等の強化

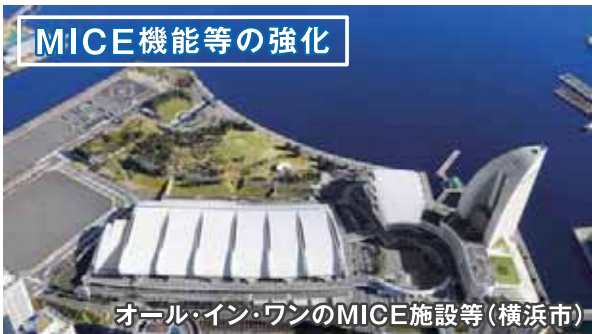
- ・MICE関連施設が徒歩圏内に一体的・機能的に配置される「オール・イン・ワン」の実現
- ・第2期展示場整備やホールの機能更新による大規模会議・展示会等の開催余力向上

●ゲートウェイ機能等の強化

- ・大型クルーズ船の2隻同時着岸を可能とする岸壁整備, 観光バス待機場の拡充
- ・国際フェリーやクルーズ船等に対応した多目的に利用できる岸壁整備

●賑わい機能等の強化

- ・MICE・ゲートウェイ機能の強化とあわせた福岡都心部の新たな魅力となる賑わい・集客機能等の拡充
- ・海辺を活かした連続性のある賑わいづくりと気軽に海辺を楽しめるオープンスペースの確保など



※施設等の配置は民間の活力や創意工夫等をいやすため柔軟に検討を行います。

<土地利用計画(概ねの機能配置)>

- ① MICE・賑わいゾーン: 展示場、会議場、ホテル、賑わい施設等の一体的・機能的配置による機能強化
 - ② エントランスゾーン: 海と陸、港と街をつなぐ玄関口づくり、交通広場・交流空間とMICE関連機能の誘導
 - ③ 集客・賑わいゾーン: 集客・賑わい機能の強化と親水ゾーンなどの連携強化による一体的魅力づくり
 - ④ 親水ゾーン: 海辺の開放性を活かした回遊性や賑わいの創出
 - ⑤ 人流複合ゾーン: クルーズ船受入環境を強化するとともに、国内外の多くの人が集い楽しむ空間づくり
 - ⑥ 物流複合ゾーン: 物流機能と共存を図りつつ、将来の港湾(人流)需要等への対応
 - ⑦ 将来拡張ゾーン: 港湾の人流・物流需要等を見据えた空間づくり
 - ⑧ ウォーターフロント周辺ゾーン: ウォーターフロント地区と連携・補完する多様な機能誘導
- ※ 都心の貴重な海辺空間: 来街者が海辺の開放感や親水性を楽しめる空間づくり



06

交通・回遊機能強化の基本方針

～都心拠点へのアクセス強化と人・公共交通を中心としたまちづくり～

交通

●公共交通アクセスの強化

- ・都心循環BRTの形成

●ウォーターフロント地区内交通の円滑化

- ・地区内の公共交通専用動線と快適な乗降場の整備
- ・築港石城町線の整備／交差点の改良
- ・歩車分離を図る歩行者デッキの整備
- ・利便性の高いタクシー乗降場・待機場の確保
- ・クルーズやMICEに対応した観光バス待機場の確保

●交通マネジメントの充実・強化

- ・駐車場の集約化と適正配置 ※出来る限り都市高速道路南側に確保
- ・事業者等と連携した公共交通利用の促進、交通マネジメント
- ・イベント時における交通情報発信の充実・強化、駐車場のシェアリング・マネジメント

●まちづくりの進展等を踏まえた検討

- ・幹線道路ネットワークなど交通機能の強化 など



バスと歩行者空間が共存した道路空間(デンバー)

●各施設の連携と地区内を回遊する歩行者動線の確保

- ・賑わいの連続性を演出するゆとりある歩行者空間の確保
- ・親水空間を回遊できる歩行者動線の充実
- ・コンベンション施設や賑わい施設等をつなぐ円滑で快適な歩行者動線の確保

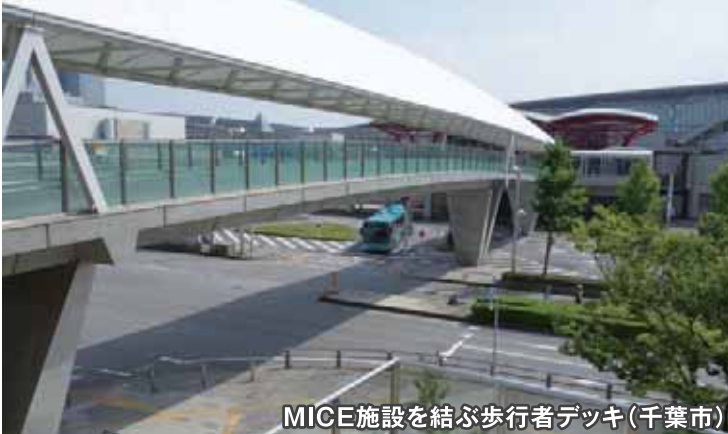
●回遊の起点となる広場空間の創出

- ・地区のエントランスゾーンにおける広場の確保

回遊



海辺沿いの連続的な賑わい(シドニー)



MICE施設を結ぶ歩行者デッキ(千葉市)



07

景観形成の基本方針

～大博通りから海へつながる空間確保とシンボリックで一体感のある景観づくり～

【ウォーターフロント地区全体】

- ・エリア全体として一体感のある魅力的な景観形成
- ・海への見通しや開放感の確保
- ・海辺を活かした回遊空間における賑わいと憩いの創出
- ・福岡市の新たな顔となるシンボリックな都市空間の創出
- ・海(船)や広場などを主要な視点場として、視点場からの建築物等の形態・意匠、緑、夜間景観などの見え方への配慮

【エントランスゾーン】

- ・地区の顔となる賑わいや集いを演出する広場の確保
- ・大博通りから海へ抜ける見通しの確保／海とまちをつなぐ回遊空間の創出

【親水ゾーン】

- ・ヒューマンスケールの賑わいや活気を感じる居心地のよい海辺空間の形成
- ・ゆとりや視認性を確保した回遊動線
- ・ユニバーサルデザインによる安全性・快適性の向上
- ・魅力的な夜間照明やサインなどによるおもてなしや回遊性の向上



シンボリックで一体感のある魅力的な景観(横浜)



ライトアップによる魅力的な夜景(シンガポール)

● 地区内企業等が参画したエリアマネジメントの仕組みづくり

- ・海やオープンスペースを活かしたオープンカフェやイベントの開催など日常的な賑わいづくり
- ・福岡市内の観光資源や交通情報等の案内／歴史文化施設等との連携 など



水上レストラン(品川区)



水面を活用したイベント(シンガポール)



環境美化活動(福岡市)

● 地球環境に優しい環境配慮のまちづくり

- ・建築物の省エネルギー化や高効率化、緑化等の促進
- ・公共交通の利用促進 など



緑化等に配慮した建築物(大田区)



地区内を走るシャトルバス(千代田区)



レンタサイクル(柏市)

● 安全・安心のまちづくり

- ・建築物の耐震化促進、備蓄倉庫等の確保、災害時の安全な避難場所の確保
- ・国内外からの来街者への円滑な情報提供、連絡体制の強化、防災力向上の取り組み
- ・防犯カメラの設置等防犯の観点を取り入れた施設計画 など



防災用備蓄倉庫(小田原市)



情報案内板(福岡市)



避難訓練(京都市)

福岡市ではこれまで、市民や専門家の方々などの意見を聞きながら、「ウォーターフロント地区再整備の方向性」を取りまとめ、さらには、民間事業者の方々からのアイデアなどを取り入れるため、計画提案を頂きながら、約65haに及ぶ地区全体のまちづくりについて検討を進め、今回、将来像と基本的な考え方を「ウォーターフロント地区再整備構想」として、とりまとめたところです。

今回の計画提案では、民間事業者の方々からウォーターフロント地区全体に及ぶ様々な提案を頂き関心の高さを感じるとともに、**行政の発想によらない貴重なアイデア**を多数いただきました。

一方、日本政府においては、「**観光立国の実現**」を成長戦略の柱の一つに掲げ、訪日外国人旅行者数が2030年に3,000万人を超えることを目標として様々な取り組みを進めています。その中でウォーターフロント地区は、全国第2位の国際会議開催件数を誇る福岡市の**MICE施設の中心**として大きな役割を果たすとともに、外航クルーズ船の寄港急増を踏まえ、**大型クルーズ船の受入環境強化**に向けて、**国の事業による整備が動き出した**ところ です。

今後、この再整備構想に基づき、**インバウンド施策をはじめとした国の動向**も見据えながら、九州・西日本の更なる発展に向けて

- ・民間事業者の活力やノウハウを最大限活用した**まちづくり方策**をはじめ、
- ・公共交通アクセスの強化や地区内交通の円滑化に向けた**交通環境の改善方策**
- ・**本市財政負担の軽減方策**
- ・これらを踏まえた事業化区域における**公募方針**

などの検討を深化させ、事業者公募に関する様々な準備を進めていきます。



住宅都市局都心創生部ウォーターフロント再整備推進課

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 TEL:092-711-4713 FAX:092-733-5590 E-mail:waterfront.HUPB@city.fukuoka.lg.jp